

# 教育の原点は家庭

## 唐

の有名な詩人白樂天は、皆様周知のように優秀な官吏でもありました。その白樂天が、杭州の刺史（知事）として、彼の地に赴任した時、秦望山に道林和尚という高德の僧がいることを聞きました。『香山』という居士号を持つ仏教の帰依者でもある白樂天は、早速道林和尚のもとを訪ねました。そして、様々な教えを乞うた中で仏法の大意を問いました。それに応えて道林和尚が言った言葉が、

『諸悪莫作 衆善奉行』

でした。平易な言葉で言えば『悪いことはせずに良きことを行いなさい』となります。徳の高い禅僧から高邁な真理を授かると思っていた白樂天は酷く落胆して、そんなことなら三歳の子どもでも分かっていることだと憤然としました。すると道林和尚は三歳の子どもでも知っているが、八十歳の老翁でも為すことは難しいと論じたのです。これには、白樂天も返す言葉がなかったそうです。

## 子

どもは、身近な大人達の姿を見て、其れを真似ながら大きくなって行きます。そのお手本の根本は正に親であり家庭です。この頃、待機児童の解消だ、子ども手当だと様々な子育て支援が要求されています。それはそれで結構なことなのでしょうが、どうも子どもを邪魔な存在として、どこかに養育を必要以上に手伝って貰おうとしている雰囲気を感じられるのです。子育ては、本当に手間の掛かるものです。親が自分の時間を最大限活用することは当然のことでしょう。子育ての基本は、親そのものの生き方と子どもとのふれあいの質に関わってくることは疑うべくもありません。

## 学

校の中のいじめが取り沙汰され、学校の体制や教師の責任が問われます。勿論、学校や教師はいじめに対してしっかりと対応しなければなりません。教育のプロとして当然のことです。それと

同様に、親はいじめをしない子どもに育てる気概がなくてはなりません。意識しないにしても、いじめをする子どもに育てた責任は、親にも十分にあります。子どもの成長に学校は大きな役目と責任があるのは当然のことです。しかし、生まれてから学校に入るまでの間、その多くの時間を一緒に過ごす親の影響は小さいはずはありません。

平成十二年十二月二十二日に提案された教育改革国民会議報告書の冒頭で「教育の原点は家庭であることを自覚する」と述べ、親は出来るだけ子どもと一緒にいる時間を増やし、子どもをしつかりと躱けることが大切であると提言しています。このことは、今更公に提言しなくとも当たり前のことと思っていたのですが、時代はその事を提言しなければならぬようになっていたのだと、思いを新たにしました。

## 児

童・生徒に関わる様々な事件や事故が報道される度に、その子どもが在籍する学校の校長等に様々なコメントが求められ、責任の有無について取り沙汰されます。時には教育委員会の問題として扱われることもあります。教育現場で至らなかつた点があれば、事後改善に尽力することは当然のことでしょう。反面、教育の原点である親について検証されることは憚られているような雰囲気があります。

しかし、本当にそれで良いのでしょうか。親は、子どもをしつかりと躱けてから、学校という場に送り出さなければいけません。それが、親としての大きな努めです。学校・教員は、家庭教育の大切さ、親の躱の重要さについて、もっと発言しても良いのではないかと思うのです。親や子どもに対する配慮がなされなければなりません。遠慮は禁物だと思ふのです。

（元青森県立北斗高校校長）